

市木ふるさと音頭 完成秘話

「みんなで踊れる、市木の音頭があつたらいいね」
山下校長先生のそんな言葉からスタートした
市木音頭を制作するプロジェクト！
その完成までの道のりをご紹介します。

・2024年11月

市木小学校の子ども達が考えた歌詞のフレーズを、制作メンバーで確認していきます。1人だけでなく、何人もが同じことを書いているフレーズを優先して取り上げたり、子ども達の思いを表現する言葉を探したりしながら、歌詞としてまとめていきます。歌詞を作るのは未経験の人ばかり。音楽に詳しいPTAの石田恵一さんが、メロディにどうやって歌詞をのせるか、叩き台を作ってくれました。

作曲は、日南市在住の作曲家・高橋成直さんが引き受けてくださいました。高橋さんは、市木小学校の佐藤瑛翔さん、あさひさんの叔父でもある、市木にゆかりのある方です。

・2024年12月

歌詞の候補をもとに、最終仕上げ。市木のいいところがいっぱい詰まった音頭ができました！ PTAの島田愛子（日本舞踊家・花柳鼓々奈）さんが振り付け作業に入ります。地域の方々とも相談しながら、曲の名前は「市木ふるさと音頭」に決まりました！

・2025年1月

地域の方々と一緒に踊りの練習会を行いました。練習会で振り付けの改良も行い、みんなで輪になって踊る楽しさを実感しました。もともと、柱松のお祭りの日に、歌や踊りを長年披露し続けてきた市木の方々。さすが芸達者な方が集まっています！

・2025年2月

いよいよお披露目！ 第2回家庭教育学級の時間に、市木ふるさと音頭が発表されました。地域のお祭りの文化について学び、みんなで踊れる「市木ふるさと音頭」がどのように制作されたのか、振り付けのベースになった市木地区が継承された祭りや踊りについても解説されました。子ども達や参加した方々からは「みんなで踊ると楽しい」、「たいまつを投げる振りが面白い」、「これからたくさん踊りたい」など、笑顔で元気いっぱいコメントがありました。

最後に、PTA学年委員長の石田まりさんの挨拶を抜粋します。
「市木の未来を考える時に、人の存在なしではそもそも考えられません。同じ市木に住んでいて、一人ひとりみんな違いますが、だからこそ繋がっていくことで、一人ではできないこと、一人では考えられない知恵、一人では動かせないもの、一人では受け取れない豊かさを受け取ることができるのだと思います。音頭という意味は、多くの人が歌とともに踊ることです。一人ひとりが繋がって、小学校だけでもこんなに大きな力となっていくことが分かるきっかけともなっています。この輪がふくらんで、みんなで楽しく歌って踊る機会が増え、絆を深め、さらに沢山の笑顔の人であふれ、活気のある市木の未来へ進んでいくことを確信しています」



左：振り付けの解説。
市木に伝承される
松の下笹踊りと、
石波の盆踊りがベースに
なっています



上：2月に行われた家庭学級のようす。
みんなで輪になって踊りました！



上・右：歌詞作りの
ようす

完成！

市木ふるさと音頭

1

市木のいいところこやろか～
白い浜辺とやしのみち
山にゃポンカン、田にオクラ
みんな集うよ幸島に

2

イキイキ市木いい地域～
人も優しく、芸達者
祭もあれば、波もある
今も昔も笑い声

3

市木ふしぎでいいところ～
アカメ、ウミガメ、コウノトリ
アカショウビンに、サルたちも
みんな幸せ エーイトナー

4

まだまだあるよ、こんなところ～
キラキラ光る青い海
南にくだれば恋が浦
北にのぼれば夫婦浦

市木いいところよっといで～
きのみ、きのまま、猿のまま～
ほかほか楽しく輪になって
あ～あ～、市木ありがとう！

上：子ども達が歌詞作りのために考えた
フレーズの一部

